

# 令和4年度全国学力・学習状況調査の結果および考察

大阪狭山市立南第二小学校

## 1. 本年度の全国学力・学習調査結果の学力の概要について

- ・対全国比の平均正答率は、どの教科も良好な結果でした。
- ・国語の調査では、「言葉の特徴や使い方に関する事項」について良好な結果でした。本校における漢字カルタの取組みが成果につながったと思われます。一方「書くこと」について課題がみられました。
- ・算数の調査では、「図形」の領域について良好な結果でした。各教科でプログラミングを活用していることが成果につながったと思われます。一方「データの活用」の領域について課題がみられました。
- ・理科の調査では、「エネルギー」を柱とする領域について良好な結果でした。本校で理科詩や復習クイズなど、楽しく基礎事項の定着を図る取組みを行っている成果だと考えられます。一方「生命」を柱とする領域について課題がみられました。

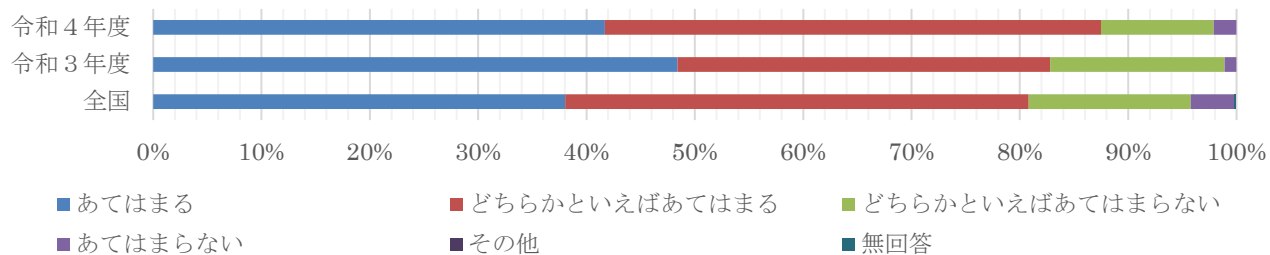
## 2. 各教科における成果と課題について

	成 果	課 題
国語	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「読むこと」の領域で、物語文の心情を読み取る問題について平均正答率が全国平均を上回っていました。本校で取り組んでいる独自学習ならびに相互学習の成果が表れていると考えられます。</li> <li>・「知識・技能」の平均正答率が高く、継続して取り組んでいる漢字カルタ活用の成果が表れていると考えられます。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・記述式の問題で「書くこと」に関する平均正答率が低い。複数の条件を満たすことや問題の意図を理解することに課題があります。</li> <li>・自身の考えを書くことに課題があります。</li> </ul>
算数	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「図形」の領域において平均正答率が全国平均を上回っていました。プログラミングを使用した課題解決学習に取り組んでいる成果が表れていると考えられます。</li> <li>・記述式の問題の平均正答率も高いものが多く、求め方の過程を大切に授業内容が活きてきていると考えられます。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・割合についての問題で、言葉の意味や定義の理解に課題がみられました。</li> <li>・「データの活用」の領域において、情報過多の中から必要なものを選ぶことに課題がみられました。</li> </ul>
理科	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「知識・技能」に関する問題について平均正答率が高く、授業のスタイルとして、基礎事項を理科詩にして記憶させたり、單元ごとの復習を丁寧に行ったりしている成果と考えられます。</li> <li>・実験の結果と記録やまとめを関連付ける問題の正答率が高く、専科による丁寧な実験を行っている成果と考えられます。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・記述式の問題において、条件や根拠を満たして書くことに課題がありました。</li> <li>・情報過多の問題から重要なキーワードを見つけることに課題がありました。</li> </ul>

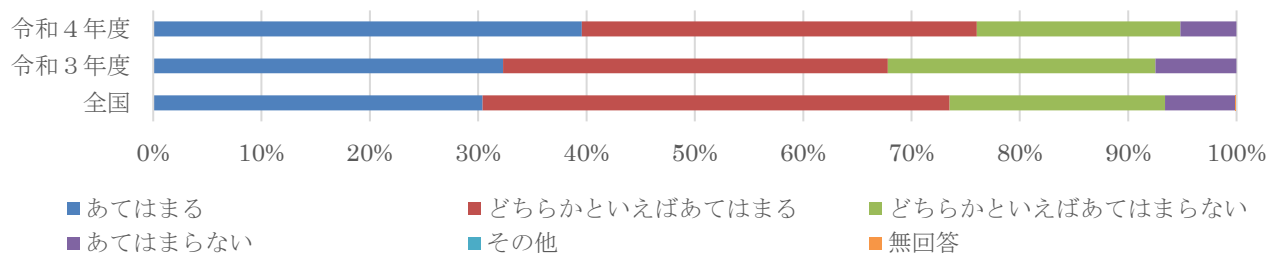
### 3. 児童質問紙調査の結果の概要について（肯定的評価の割合）

〈取組みの成果があらわれている、または特徴的であると思われる事項について〉

◆学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、ひろげたりすることができますか。



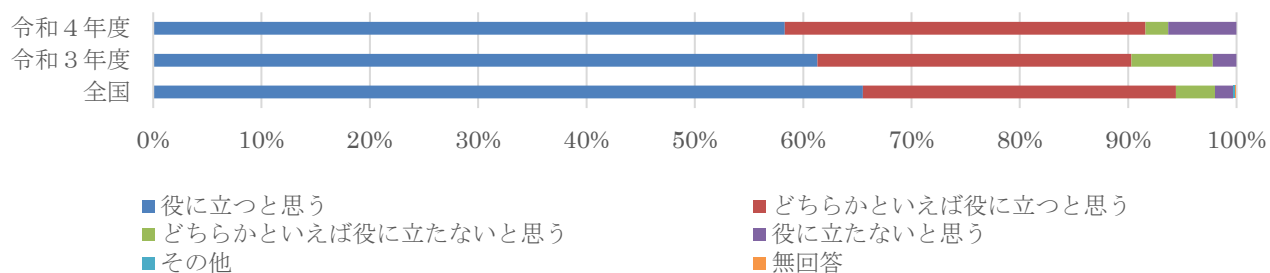
◆自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか



どの学年、どの教科学習においても、ペアやグループでの意見交換を行い、考えや理解を深めるてだてとして活用している。まずは自分で考え思いをもつこと（独自学習）、そしてペアやグループで考えや意見の交換をし、自分の考えや思いを振り返ることで（相互学習）新たな考えを生み出したり、理解を深めたりすることができると考え、校内研究としても職員一段となって研究を進めている。児童が主体的に学習をすすめる成果として表れていると考える。

〈今後に向けて、課題と思われる事項について〉

◆学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか



タブレットの導入に伴い、一人一台端末の活用について研究を進めている。ICT機器を使うことにとらわれず、学習活動の中で、いつどのように活用すれば学習を効果的に進めることができるか常に模索中である。効果的に活用することができれば、学習や生活の役に立つと感じてくれることと考える。今後も効果的な活用を探っていきたい。

#### 4. 成果と課題を踏まえた今後の取組みについて

##### (1) 基礎・基本の定着

- ・朝学習の時間を「チャレンジタイム」とし、漢字カルタ、計算練習に取り組み、学期に1回程度、効果測定を行う。
- ・Good Book 企画（絵本が2冊入った袋を一週間に一度持ち帰り翌週は別の袋を持ち帰ることで30人のクラスだと30袋の絵本に出会える企画）を通して、読書活動の推進を図る。

##### (2) 学習形態と授業内容の工夫

- ・相互学習を重視し、他者との意見交流を活発に行い、自分の考えとの比較や自分の考えを見つめなおすなどの学習を繰り返し、聞く力を高める。また学習が深まるようにする。
- ・各教科でのノート指導や日記指導により、自分の考えを表現するような書く力を高める。
- ・めあての提示と課題解決の過程、振り返りを重視した授業を構築する。理科では、観察や実験結果からどのようなことがわかり、何が言えるのかなどをじっくりと考えさせる過程を大切にします。
- ・設問をよく読み、必要なこと（条件など）を理解して書くことや、日常と結び付けて考えることができるよう、国語や算数だけでなく、どの教科でも生活に関連させて学習を進めるようにする。

##### (3) ICTの活用

- ・タブレットドリルの、隙間時間や朝学習、家庭学習での取組みを充実させていくことで、基礎的・基本的事項の定着を図る。
- ・クラスルームやスプレッドシート、ジャムボード、オクリンクなどのソフト等を活用し友だちとの考えの交流や、自身の考えの発表などが円滑に進むなど授業内で効果的に取り入れ、学習内容が深まるようにする。
- ・デジタル教科書の使用や大型テレビの活用で、視覚支援を行い、児童が安心して授業に取り組むことのできるようにする。

##### (4) 教職員の授業力向上

- ・わかりやすく見通しの持てる授業づくりを進め、主体的・対話的で深い学びにつながる学習指導に取り組む。
- ・「目標に向かって、自ら考え、共に高め合おう」という研究テーマを掲げ、一斉学習、個別学習、協働学習を通して考えをつなげ深めていく学習集団をめざした研究に取り組む。研究を通して授業力の向上を図る。

#### 5. 保護者・児童のみなさんへ

- ・授業では、その時間の「めあて」を明確にして、どんな課題に取り組むのかの見通しをもてるようにし、授業の最後には必ず「振り返り」を行い、児童自身が身につけたことやわかったこと、めあてを達成できたかどうかの確認をするようにしています。今後も、明確なゴールをめざして、一人ひとりが頑張ることのできる授業、学級の仲間と一緒に頑張ることのできる授業を追求していきます。
- ・朝の学習の充実を図り、基礎・基本となる漢字カルタの取組みやタブレットドリルの活用、計算チャレンジ、読書に取り組んでいます。また辞書を手元に置き活用することで、語彙を豊かにするようにしています。授業の中では、これらの基礎力を活用して、書くことや読むこと、表現することの力をつけるように工夫していきます。
- ・「人が困っているときは、進んで助けていますか」の質問にほとんどの児童が肯定的に答えています。日頃から高学年として低学年のお手伝いをし、行事でも率先して先頭に立ち下級生をリードしてくれています。自分のことだけでも大変な時があるとは思いますが、常に周囲を気にかけて、友だちと協力したり助け合ったりしている姿勢を、今後も持ち続けてほしいです。